

講演

100年にわたって つないできた物づくりの襷

(株)小賀坂スキー製作所
代表取締役 小賀坂 道邦 氏



ただ今ご紹介いただきました小賀坂でございます。

大変身に余るようなご紹介をいただいて、本当に恐縮しております。皆様には、日頃から大変お引き立ていただき、そしてご支援いただき、大変お世話になっております。

この高い席ではございますが、一言お礼を申し上げて話を進めさせていただきます。

本日は、大勢の皆さんが長年スキーの普及・発展にご尽力されたということで、受賞されましたことを心からお祝いを申し上げます。本当におめでとうでございます。

お手元に「小賀坂100年の歩み」という綴りを用意してございます。

それと「東京新聞1936年・昭和11年5月19日（火）」付けの新聞のコピーが入っております。これは参考までにお持ちしました。

堀内文次郎中将談ということで出ておりますが、この方は長野市の松代出身の方で、高田連隊スキー研修のレルヒ少佐のもとで、研修会があった時の総責任者として任務にあられた方でございます。その方が、昭和11年に記事を書かれております。

レルヒ少佐がスキーの指導をされた時にどんな舞台裏だったのか、皆さんにその舞台裏を承知していただけることが、これからのスキーを考える上で少しは参考になる点があるのではないかと思います。私共が保管している資料をお持ちしました。ご参考までにお読みください。

それでは、私共100年の歩みに入らせていただきますが、その前に私共がスキー製作を始める前の日本のスキーの状況はどんなであったらうか、ということが第1頁にございます。

スキーという言葉が出てきたのは色々ございましょうが、記録に残っているのは明治28年(1895年)、日本国内に初めてスキーを持ち込んだのは、のちの大將松川敏胤(としたね)大尉とされていますが、そのスキーは現存しておりません。

その後、青森の5連隊200名が八甲田山中で遭難・凍死した大惨事がございます。

ここのスキー史の中に何で持ってきたのかと言いますと、明治42年にこの大惨事のお見舞いとして、ノルウェーから2台のスキーが贈られているということが歴史の中にございまして、そんなことから青森5連隊の大惨事を記入しております。

